

**特別調査**

**地域における  
“新しいコミュニティシネマ/  
新しい映画の場所”の可能性**

---

**資料**

全国コミュニティシネマ会議2019採録

Working group Discussion

**やっぱり、ここで映画をみたい  
映画館をつくる/映画館を再生する**

---

## 地域における “新しいコミュニティシネマ/ 新しい映画の場所”の 可能性

1990年代初頭には、全国に1500館以上の映画館があった。

1960年代半ばまで全国に約5000館の映画館があり、地方の中小都市にも映画館があった。1990年代には最盛期の3分の1ほどに減少したが、それでもまだ多くの町に映画館があり、多くの人がかつて自分の町にあった映画館のことを記憶している。1993年にシネマコンプレックス第1号が開館し、1館に多スクリーンをもつシネコンが各地に開設されてスクリーン数が増加しつづける一方、中小都市に多数あった映画館は次々に閉館し、映画館数は減少の一途を辿り、2019年の映画館数は593館となっている。全国各地に「映画館のない町」ができ、12ページの映画館地図を見てもわかる通り、映画館空白地域が広がっている。

しかし、減少する一方だった映画館の数は2010年代に入って、少しずつ増えている。新設される映画館の多くはシネコンであるが、シネコン以外の映画館もつくられており、その多くが人口20万人以下の町に開館している。

当初、シネコンの多くが郊外の幹線道路沿いにつくられた。幹線道路沿いには多くのショッピングセンターがあり、車社会が進行するにつれ、駐車しやすい郊外のショッピングセンターやシネコンに人が集まるようになり、中心市街地の多くの商店が店を閉じ、映画館も閉館した。90年代には中心市街地の空洞化が全国各地の都市で進行し、国レベルの政策課題となり、中心市街地活性化のための様々な施策が講じられるようになる。

しかし、中心市街地には、歴史と文化があり、長い年月を積み重ねて築かれてきたコミュニティがあり、それぞれの町の物語がある。それはそう簡単に失われるものではない。2011年3月11日の東日本大震災は、身近なコミュニティの大切さを再認識させる大きな契機となり、人々の地域やコミュニティに対する関心、まちづくりに対する関心を高めることになった。2010年以降、多くの町で「やっぱり、この町で映画をみたい、みせたい」と、閉館した映画館を新たな映画館としてリノベーションして再開する、あるいはその町らしい新しい上映の場所をつくるという動きが生まれたのも、このようなコミュニティに対する関心の高まりと無関係ではない。2003年に生まれた“コミュニティシネマ”というコンセプトにおける、“コミュニティ”に対する意識にも変化がみられ、それが映画館・コミュニティシネマのあり方にも影響を与えている。

新しいコミュニティシネマは、「多様な映画を上映する」というコミュニティシネマの基本的なコンセプトを保持しつつ、これまで以上に、地域や、映画館を取り巻く人たちとの関係、コミュニティとの関わりを強く意識し、観客やコミュニティとともにある「コミュニティシネマ/映画の場所」を目指しているように見える。

### 新しいコミュニティシネマの特徴

#### 地域の中心市街地や商店街の中にある

→ 一度閉館した映画館をまちづくり会社やNPO法人が再生した事例も多く、まちなかにあるカフェや商店、ライブハウスなどを映画の場所にリノベーションする事例も。

#### 老若男女、多様な世代、多様な関心を持つ層が集まることができる

→ 子ども向けの映画も、高齢者向けの映画も、メジャーな大作もアート系映画も上映。多様な映画を上映。

### 映画の上映以外のこともやっているコミュニティの場所

- 映画以外の事業の実施(ライブ、コンサート、舞台芸術、アート系・文学系・食べ物系等々各種地域イベントとの連携、お祭り、講座、ワークショップ、野外上映、移動上映等々)
- カフェ・レストラン・ミニ図書館・書店・フリースペース・ギャラリー・ベーカリー・雑貨ショップ等の併設

### 地域の多様な人が映画館に関わっている/地域と密接に関わっている

- 学校との連携(子ども向け上映やワークショップ、学校訪問上映、ワークショップ等)
- 映画祭やフィルムコミッションとの連携、共催
- 自治体や文化機関との連携
- 地域の様々なアーティスト、アート系NPO、大学、研究機関との連携
- 地域の商店街や商工会議所等との連携(割引券、駐車場共有等)

### 映画館がまちづくりにおいて重要な場所に位置付けられている

- まちづくり系株式会社やNPOが運営
- 「SDGs(持続可能な開発目標)」

持続可能なまちにしていこうと、映画館や上映施設が地域文化の拠点のひとつとして認識される

実は、1980-90年代につくられたミニシアターの多くも上記のような特徴を備えている。ただ、それを改めて殊更にアピールすることもないために、新鮮なイメージを与えにくくなっている面がある。コミュニティシネマは、多様な、魅力的な映画を届けることが第一の使命としてあることに変わりはないが、非常に多くの作品が公開され、配信等映画鑑賞の方法が多様化する中では、どのような場所で、どのような形で映画を上映するのか、届けるのかが非常に重要になる。

現在も、映画館のない町、映画文化を享受することが難しい地域は全国各地に広がっている。今回、調査した事例の中には、4スクリーンをもち年間8万人を集客する映画館もある一方、週に3日だけ上映を行うカフェシネマもあり、多様である。新しい映画の場所を作ろうとする人たちにあってよい先事例となるだろう。新しい映画の場所は、映画館という固有の場所をもたねばならないわけではないし、必ずしも毎日上映が行われる必要はない。毎月、あるいは毎週、定期的に上映が行われる場所、デジタル化の進行によって、そういう場所をつくることは容易になっている。

地域の中に、コミュニティのための小さな映画の場所、新しいコミュニティシネマが生まれることは、地域の文化の固有性や多様性を支える大きな力となる。しかし、このような場所をつくることも、その場を持続していくことも容易なことではない。映画館・コミュニティシネマが、これまで以上にコミュニティにとって重要な場所になり、かけがえのない場所として継続し、さらに新しい映画の場所が生まれるためには、地域の自治体や文化機関等が、このような活動に積極的に関与し、支援することが必要であることも付言しておきたい。

### 2007年以降に開館したシネマコンプレックス以外の主要な映画館(100万人以上の都市除く)

- 01 | 新千歳空港シアター 2011年開館 北海道千歳市(9.7万人) | 3スクリーン | (株)えんれいしゃ
- 02 | 御成座・再生 2014年開館 秋田県大館市(7.4万人) | 1スクリーン | (株)日本コンプリート
- 03 | 鶴岡まちなかキネマ 2010年開館 山形県鶴岡市(12.9万人) | 4スクリーン | (株)まちづくり鶴岡
- 04 | 高崎電気館・再生 2015年開館 群馬県高崎市(36.8万人) | 1スクリーン | NPOたかさきコミュニティシネマ
- 05 | 前橋シネマハウス・再生 2009年開館 群馬県前橋市(33.2万人) | 2スクリーン | 一般財団法人 前橋市まちづくり公社
- 06 | あまや座 2017年開館 茨城県那珂市(5.5万人) | 1スクリーン | OuchKINEMA 合同会社
- 07 | 深谷シネマ 2010年開館 埼玉県深谷市(14.4万人) | 1スクリーン | NPO 法人市民シアター・エフ
- 08 | 川越スカラ座・再生 2007年開館 埼玉県川越市(35万人) | 1スクリーン | NPO 法人プレイグランド
- 09 | キネマ旬報シアター・再生 2013年開館 千葉県柏市(43万人) | 3スクリーン | (株)キネマ旬報DD

- 10 | アップリンク吉祥寺 2018年開館 東京都武蔵野市(14.8万人) | 5スクリーン | (有)アップリンク
- 11 | あつぎのえいがかん kiki ●再生 2019(2015)年開館 神奈川県厚木市(22.6万人) | 3スクリーン | (株)映像機器システム社
- 12 | 鎌倉市川喜多映画記念館 2010年開館 神奈川県鎌倉市(17.6万人) | 1スクリーン | 川喜多記念映画文化財団
- 13 | シネマアミーゴ 2009年開館 神奈川県逗子市(6.0万人) | 1スクリーン | 合同会社BASE LLC
- 14 | シネコヤ 2017年開館 神奈川県藤沢市(43.4万人) | 1スクリーン | (株)シネコヤ
- 15 | 十日町シネマパラダイス 2007年開館(2018年閉館)新潟県十日町市(5.3万人) | 1スクリーン | 夢シネマ(株)
- 16 | 高田世界館 ●再生 2009年開館 新潟県上越市(19.5万人) | 1スクリーン | NPO法人街なか映画館再生委員会
- 17 | ガシマシネマ 2017年開館 新潟県佐渡市(5.7万人) | 1スクリーン | 個人
- 18 | フォルツァ総曲輪 ●再生 2007年開館(2020年再開予定)富山県富山市(41.5万人) | 1スクリーン | (株)まちづくりとやま
- 19 | ほとり座 2018年開館 富山県富山市(41.5万人) | 1スクリーン | (株)EVERT
- 20 | 上田映劇 ●再生 2017年開館 長野県上田市(15.4万人) | 1スクリーン | NPO法人上田映劇
- 21 | シネ・グルージャ 2019年開館 京都府舞鶴市(8.4万人) | 1スクリーン | 個人
- 22 | 福知山シネマ ●再生 2007年開館 京都府福知山市(7.9万人) | 3スクリーン | シマフィルム(株)
- 23 | 豊岡劇場 ●再生 2014年開館 兵庫県豊岡市(8.3万人) | 2スクリーン | (有)石橋設計
- 24 | シネマ尾道 ●再生 2008年開館 広島県尾道市(13.2万人) | 1スクリーン | NPO法人シネマ尾道
- 25 | ユーフォーテーブル・シネマ 2012年開館 徳島県徳島市(25.5万人) | ユーフォーテーブル(有)
- 26 | 大川シネマホール(おおかわ交流プラザ) 2015年開館 福岡県大川市(3.5万人) | 1スクリーン | (株)医療福祉運営機構
- 27 | シアター・シエマ ●再生 2007年開館 佐賀県佐賀市(23.4万人) | 2スクリーン | (有)69'nersFILM
- 28 | シアター・エンヤ(演屋) 2019年開館 佐賀県唐津市(12.4万人) | 1スクリーン | (株)いきいき唐津
- 29 | シネマ5 bis ●再生 2011年開館 大分県大分市(47.7万人) | 1スクリーン | 合同会社チネ・ヴィータ
- 30 | 日田シネマテーク・リベルテ ●再生 2009年開館 大分県日田市(6.3万人) | 1スクリーン | 日田シネマテーク・リベルテ
- 31 | 玉津東天紅 2017年開館 大分県豊後高田市(2.2万人) | 1スクリーン | 玉津プラチナプロジェクト
- 32 | 延岡シネマ ●再生 2008年開館 宮崎県延岡市(12.5万人) | 3スクリーン | (株)延岡シネマ
- 33 | ガーデズシネマ 2010年開館 鹿児島県鹿児島市(59.5万人) | 1スクリーン | 一般社団法人鹿児島コミュニティシネマ
- 34 | シネマパニック ●週末上映 ●再生 2014年開館 鹿児島県奄美市(4.4万人) | 1スクリーン | (株)ブックス十番館
- 35 | シアター・ドーナツ 2015年開館 沖縄県沖縄市(14.2万人) | 1スクリーン | (株)ファンファーレ・ジャパン
- 36 | シネマプラザハウス1954 2019年開館 沖縄県沖縄市(14.2万人) | 2スクリーン | ザ・テラスホテルズ(株)
- 37 | ゆいロードシアター(←丸映館) ●再生 2018年開館 沖縄県石垣市(4.9万人) | 1スクリーン | (株)STAGING PRIME

鶴岡まちなかキネマ [2010年5月開館] | <http://www.machikine.co.jp/>

東北地方 山形県鶴岡市	運営団体 株式会社まちづくり鶴岡	年間上映本数 約150本
鶴岡市人口 約12万人	住所 山形県鶴岡市山王町13-36	年間観客動員数 約8万人
近隣の映画館	4スクリーン [165席   152席   80席   40席]	毎日上映 大手メジャー作品から
イオンシネマ三川(山形県三川町) [7スクリーン]	上映設備 DCP/35mm/BD/DVD	アート系作品まで幅広く上映

鶴岡市は山形県の日本海沿岸南部の庄内地方に位置し、人口は約12万人。鶴岡駅は、新潟から秋田まで日本海沿岸をつなぐ羽越本線の沿線にあり、新潟駅まで2時間、秋田駅までは2時間半である。庄内空港には羽田空港との往復便が1日4本運航していて、飛行時間は約1時間、庄内空港からバスで30分程で鶴岡市街地に着く。

鶴岡市の中心市街地は、江戸時代には庄内藩の城下町として栄え、明治時代からは絹織物産業で発展した。かつて鶴ヶ岡城があった鶴岡公園には、鶴岡出身の小説家藤沢周平を記念した「鶴岡市立藤沢周平記念館」や、庄内藩の藩校だった「致道館」などがあり、多くの観光客が訪れている。



上から

鶴岡まちなかキネマ 外観

鶴岡まちなかキネマ 入口ホール  
広々とした劇場ロビー、コンサートも開かれる。鶴岡まちなかキネマ 劇場内  
木を基調とした内装の劇場

海と山に囲まれた地形に育まれた独自の食文化が評価され、2014年に「ユネスコ食文化創造都市」に日本で初めて認定された。近年、慶應義塾大学先端生命科学研究所やバイオベンチャー企業が集結する「鶴岡サイエンスパーク」がつくられ、その一面にある児童遊戯施設「キッズドーム ソライ」やホテル「ショウナイスイデントラス」の建築を坂茂が手がけ、注目を集めている。

「鶴岡まちなかキネマ」は、鶴岡駅から徒歩15分、山王商店街と銀座商店街の間に位置している。昭和初期に建築された木造の絹工場（松文産業旧鶴岡工場）の跡地を建築家の高谷時彦がリノベーションし、4スクリーンの映画館として2010年に開館した。元々の建物の雰囲気を生かし、映画館としては珍しく木を基調とした内装になっている。「株式会社まちづくり鶴岡」が運営を行っている。映画館隣にはベーカリーショップがあり、「鶴岡シルク」など地域物産を販売するショップもある。広々としたロビーにはピアノが置かれ、ライブも行われる。

### 鶴岡まちなかキネマ | 支配人 島山将司さんの話

#### 設立までの経緯

1970年頃まで庄内地方には、淀川長治氏から「世界一の映画館」と言われた酒田の洋画専門館「グリーンハウス」など、鶴岡と酒田を中心に映画館が9館ありましたが、2000年には「鶴岡シネマ旭」、酒田市の「酒田シネマ旭」、「港座」の3館になっていました。2001年に鶴岡市に隣接する三川町に「イオンシネマ三川」がオープンすると、翌2002年には3館が立て続けに閉館、鶴岡と酒田から映画館がなくなってしまいました。

その一方で、鶴岡出身の藤沢周平の原作で庄内で撮影された映画（『たそがれ清兵衛』[2002]、『隠し剣 鬼の爪』[2004]、『蟬しぐれ』[2005]、『武士の一分』[2006]）が立て続けに公開され、鶴岡のまちなかに映画館の復活を求める声が高まってきました。2008年、庄内全域で撮影された『おくりびと』[2008]の全国的なヒットに後押しされるかたちで、中心市街地にあった松文産業の繊維工場跡地を映画館として活用することが決まり、「株式会社まちづくり鶴岡」が松文産業から工場跡地を取得、2010年5月に「鶴岡まちなかキネマ」がオープンしました。

#### 運営方法

株式会社まちづくり鶴岡は、中心市街地活性化を目的に、鶴岡商工会議所加盟企業32社が出資して2007年に設立されました。工場跡地から映画館へのリノベーションにあたっては、経済産業省の「戦略的中心市街地商業等活性化支援事業」の補助に加え、荘内銀行をはじめ地元の多くの企業の出資を得ています。鶴岡まちなかキネマの運営は中心市街地活性化事業のひとつでもあり、映画上映以外にも利用しやすいよう、4スクリーン全てにステージを設けてあります。最近では市民が利用するダンスや演劇など、上映以外の貸館イベントに利用されることも増えています。配給会社に配慮し、貸館は月に1,2回程度に抑えてはいますが、4スクリーンあるので、ある程度融通が利くのもいいところです。エントランスホールにはグランドピアノもあり、こちらも貸館としてジャズのコンサートなど幅広く利用されています。また、テナントとして映画館の隣にベーカリーが入っていて、地元の人にとっても人気があります。

#### 上映作品・観客層

鶴岡まちなかキネマでは大手配給によるメジャー作品に加え、インディペンデント系のドキュメンタリー映画やアート系の作品など、多様な作品を幅広く上映しています。ロードショー公開時期から遅れることがあってもあまり影響は感じません。「イオンシネマ三川」(7スクリーン)は車で20分程度しか離れていませんが、上映作品は少なく、すぐ終わってしまう作品も多い。山形市内の「フォーラム山形」(5スクリーン)ではインディペンデント系やアート系の作品が上映されますが、車で1時間半かかるので、そこまで見に行く映画ファンはあまりいません。ここには約120台分の駐車場スペースがあるので車で来る方も多のですが、客層はシニアの方が多いので、ご近所同士でタクシーを相乗りして来られるのをよく見かけます。

年間観客動員数は約8万人で微増傾向にあり、開館から10年経って、映画館がまちに定着してきたように感じます。

#### 2019年11月2週目の上映作品

- 『真実』(2019 | 是枝裕和監督)
- 『ターミネーター ニュー・フェイト』(2019 | ティム・ミラー監督)
- 『あの日のオルガン』(2019 | 平松恵美子監督)
- 『台風家族』(2019 | 市井昌秀監督)
- 『記憶にございません!』(2019 | 三谷幸喜監督)
- 『アス』(2019 | ジョーダン・ピール監督)
- 『シネマ歌舞伎 女殺油地獄』(2019 | ODS)
- 『チャイルド・プレイ』(2019 | ラース・クレヴバーク監督)
- 『ジェミニマン』(2019 | アンソニー監督)
- 『マレフィセント2』(2019 | ヨアヒム・ローニンク監督)
- 『楽園』(2019 | 瀬々敬久監督)
- 『最高の人生の見つけ方』(2019 | 犬童一心監督)

## 地域とのつながりを大事に

毎年1月には「つるおか食文化映画祭」を開催し、館内外で食にまつわる映画の上映やイベントを行っています。また、夏には沖縄映画特集も実施しています。

市民からの上映の要望にもなるべく応えるようにしています。貸館として上映することもあります。映画館の主催事業として上映することもあります。上映を希望した人が広報を一生懸命やってくれるので集客もいいですし、今まで足を運んできたことがないような方に来ていただけるのもありがたいです。

オープン当初から、市内の商店街を中心に、協賛していただいているお店に映画の半券を持っていくと割引が受けられるサービスを実施しています。現在約130店が加盟していて、加盟店には「まちキネ協力店」のステッカーを貼ってもらっています。映画を見た人に市内のお店を利用してもらうだけでなく、お店に来た人にも映画館の存在を知ってもらえるので、商店街全体の活性化につながると考えています。

オープンして10年が経ちましたが、まだ、まちなかキネマに来たことがない人は多いと思いますので、様々なかたちで映画館のことを知っていただき、身近に感じられる存在であり続けられるよう、取り組んでいきたいと思ひます。

高田世界館 [2009年開館] | <http://takadasekaikan.com/>

中部地方(北陸地方) 新潟県上越市	運営 NPO 法人街なか映画館再生委員会	年間観客動員数 約1万人
上越市人口 約19万人	住所 新潟県上越市本町6-4-21	(貸館も含めると約1万7千人)
近隣の映画館	1スクリーン[181席(2階席含む)]	週6日、1日4回上映(2015→)
J-MAXシアター上越(上越市)[8スクリーン]	上映設備 DCP/35mm/BD/DVD	アート系作品を中心に上映
	年間上映本数 約80-90本	

上越市は、新潟県南西部に位置し、1971年に高田市と直江津市が合併してできた都市で、人口は約19万人。市街地も直江津と高田の二つに分かれている。市内には、新潟駅と直江津駅を結ぶ信越本線と、六日町駅と上越市の犀潟駅を結ぶ北越急行「はくはく線」、富山県境から直江津までの日本海沿岸を通るえちごトキめき鉄道「日本海ひすいライン」、長野県境から直江津までの内陸を縦断する「妙高はねうまライン」が通っている。高田から隣接する柏崎市まで車で約1時間、新潟市まで車で1時間半ほどかかる。2015年に北陸新幹線「はくたか」が開通したことで、東京駅から上越妙高駅まで約2時間となり、えちごトキめき鉄道に乗り換え二駅で高田駅に到着する。

高田は、400年ほど前につくられた高田藩の城下町で、かつては新潟市より栄えていた時期もあった。明治時代には大日本帝国陸軍第13師団の基幹部隊が配置された。高田の中心市街地には、日本最長の「雁木通り」があり、町家づくりの住居も多く、当時の商店街の風情を残している。映画館も全盛期には高田に5館ほどあったが、現在、上越市内の映画館は、「高田世界館」と上越IC近くにある「JMAXシアター上越」(8スクリーン)の2館となっている。

高田世界館は高田駅から徒歩5分の場所にあり、周辺には町家作りの家が立ち並ぶ。1911年に「高田座」という芝居小屋から始まり、その後「世界館」として映画館となり、1975年に「高田日活」と改称され成人映画館になった。2009年に前オーナーが高田日活の廃業を決めると、市民有志による「NPO 法人街なか映画館再生委員会」が発足、映画館を譲り受け、「高田世界館」として再生された。寄付金や助成金を得て、屋根瓦や椅子、外壁、トイレ等を少しずつ直していった。開館以来の木造2階建ての映画館は、日本最古の映画館のひとつとして国の登録有形文化財に登録され、現在では観光名所にもなっている。

高田映画館の運営を行う「街なか映画館再生委員会」は、映画館運営の他に、近くの文化施設「高田小町」等の指定管理も行っている。2018年には映画館前の広場も取得し、夏には縁日なども開催している。

## 高田世界館 支那人 上野迪音さんの話

私は高田出身で、横浜国立大学に進学し、梅本洋一氏のもとで映画を専攻、大学院ではエドワード・ヤンにつ



高田世界館入口

左手のアーケードの先に映画館がある。

—

高田世界館が再生するまでの経緯等については、「全国コミュニティシネマ会議2019 イン埼玉採録：やっぱり、ここで映画をみたい—映画館をつくる/映画館を再生する」[p.090]を参照。



上から

高田世界館 劇場内  
装飾を施された天井が特徴的な劇場内部

高田世界館で撮影された「国民文化祭」のポスター  
最前列左端が上野さん

#### 2019年11月-12月上映作品

『人生をしまう時間(とき)』(2019 | 下村幸子監督)  
『こはく』(2019 | 横尾初喜監督)  
『“樹木希林”を生きる』(2019 | 木寺一孝監督)  
『そして、生きる』(2019 | 月川翔監督)  
『台北セブンラブ』(2014 | 陈宏一監督)  
『ある船頭の話』(2019 | オタギリジョー監督)  
『i 新聞記者ドキュメント』(2019 | 森達也監督)  
『真実』(2019 | 是枝裕和監督)  
『コマンドー』(1986 | マーク・レストラー監督)  
『ハード・デイズ・ナイト』(1964 | リチャード・レストラー監督)  
『NO SMOKING』(2019 | 佐渡岳利監督)  
ライブ「小坂忠+鈴木茂 with 堀井慶一」も  
11月29日に実施

いて研究していました。地元で「上越映画観賞会」という熱心な映画サークルがあるのは学生の頃から知っていましたが、地元で映画の仕事をするのは難しいと思っていました。大学院卒業後は地元でまちづくりに関わる仕事をしたいと考えていて、2014年春、ちょうど卒業のタイミングで、高田世界館の専任スタッフを募集していたので応募しました。その年は、事業費と人件費が出るような補助金がもたらされたので、とりあえず1年の契約で働きはじめました。学生時代は自主上映もやっていたし、まちづくりに興味があったので、とても運がよかったです。

2014年は週休2日で営業していましたが、1年後の2015年からは週休1日になりました。映画上映の他に、音楽ライブや演劇公演、餅つき大会など、手探りでいろんなことを試しました。そんな肉体的にも精神的にも一番きつかった頃、NHKの『U29』という、29歳以下の若者の仕事現場に密着する番組に出演することになり、全国放映された番組を見た地元の人が協力してくれるようになり、自分にとっても映画館にとっても、とても大きな変化となりました。それから徐々に上映作品が増え、観客も少しずつ増えてきています。

#### 運営方法

高田世界館を運営する街なか映画館再生委員会は、映画館運営のほか、劇場正面にある「民家交流館高田小町」という施設の指定管理など、まちづくりに関係する事業も行っています。高田世界館では、映画上映以外にも、音楽イベントや落語の公演などの貸館事業も定期的に行っていて、最近では、上映の合間に、高田に来た観光客に館内をツアーすることも増えています。

現在、有給スタッフは私と代表理事のほか、アルバイト8名ほどで運営しています。

#### 上映作品

観客のほとんどがシニア層なので、シニア向けのミニシアター系の作品を中心に年間80本程度を上映しています。2018年にDCPを導入して上映できる作品の幅も広がりましたが、現在は、経営を安定させるためにも上映本数をあまり増やさないで、確実に集客できるものを長くやるように意識しています。

一方で、マサラ上映や「カナザワ映画祭 in 高田世界館」など、イベント上映は積極的に実施しています。イベント上映の場合、FacebookやTwitterの投稿に対する反応がよく、特にマサラ上映では、SNSを通じてファンたちによるネットワークが形成されてきています。イベント上映のときには市外からくる観客がほとんどになります。通常上映については、市の広報誌などに掲載してもらうこともありますが、人手不足なので、上映作品が増えてくると個々の作品まできちんと広報できず、お客さんを逃している気がすることがあります。広報をやれば入るといわけではありませんが、きちんとしないと地域の映画文化自体が廃れていってしまい、映画館としての足腰が弱ってしまいます。だからといってがむしやらに頑張っても体力がもたないので、悩ましいところです。地域の様々な団体とつながって、協力し合える体制を作る方法を他のコミュニティシネマなどから学んでいきたいと思っています。

#### これから

今後は若年層の観客を開拓していきたいと考えています。私も含め、スタッフには子どもがいる人が多いので、子ども向けの上映は増やしていきたいです。近くに高校もあるので、高校生向けに年間パスポートのようなシステムを作り、若い世代の人たちに様々な映画に触れてもらえるようにしたいと思っています。

高田という町には文化的な雰囲気があり、地元の文芸誌がいまでも定期的に発行されたりしています。そのような文化的な土壌があり、まちづくりに対する意識も高いところですが、やはり高齢化は進んでいて、Iターンで戻ってくる人がいても出ていく人のほうが多いと思います。最近では、30-40代の人たちが積極的に活動し始めているので、これから変わってくるのかなと期待しているところです。地元高田でのまちづくりはやりがいがあるし、まだできることはあると思います。

豊岡劇場 [2014年12月開館] | <http://toyogeki.jp/>

近畿地方	兵庫県豊岡市	運営団体	有限会社石橋設計	年間上映本数	約80本
豊岡市人口	約8万人	住所	兵庫県豊岡市元町10-18	年間観客動員数	約2万人
近隣の映画館	なし	2スクリーン	[175席   50席]	週6日上映	大手メジャー作品から
		上映設備	DCP/35mm/BD/DVD	アート系作品まで幅広く上映	

兵庫県北部の但馬地方に位置する豊岡市には、東京23区ほどの広大な土地に約8万人が暮らしている。京都から山口県下関まで中国地方の日本海沿岸をつなぐ山陰本線と、豊岡から宮津経由で舞鶴まで走行する京都丹後鉄道宮津線が通っている。神戸には車で2時間、姫路には車で1時間半で行けるが、同じ兵庫県でもそれらの地域とは異なる文化圏という意識があり、京都北部の丹後や鳥取東部の方が距離的には近い。豊岡は国内最大の鞆の産地で、全国生産の7割を占めている。豊岡劇場から表通りに向かうと「カバンストリート」があり、鞆店が数多く立ち並んでいる。また、豊岡駅から電車や車で10分程の距離には、観光客でにぎわう城崎温泉がある。2014年には「城崎国際アートセンター」が創設され、2015年より劇作家の平田オリザ氏が芸術監督を務めている。舞台芸術関係者の滞在型創作活動の拠点、アーティスト・イン・レジデンスとして世界各地のアーティストたちが滞在している。2021年には「国際観光芸術専門職大学(仮称)」の開学も予定されている。

1927年(昭和2年)に芝居小屋として開館した「豊岡劇場」(豊劇)は、豊岡駅から徒歩13分、豊岡市街地を南北に貫く中央公園の北端近くに位置し、2スクリーンを有する。2012年3月に前オーナーが閉館を決めたことを受け、石橋秀彦氏が「豊劇新生プロジェクト」を立ち上げ、クラウドファンディングで集めた募金や中小企業庁による補助金などを利用して、内装のリノベーションを行い、デジタル上映機材を購入して、2014年12月に再オープンした。映画館のレリーフなどの装飾がそのまま活かされ、レトロな風合いを感じさせる。

2014年からは石橋氏が代表を務める有限会社石橋設計が映画館の運営を行っている。映画館の中にはカフェとレストランが併設され、映画を見ない人も利用することができる。2018年5月に劇場正面の建物に、多目的スペース「豊劇ハナレ」を新たに開設した。

## 豊岡劇場 支配人 石橋秀彦さんの話

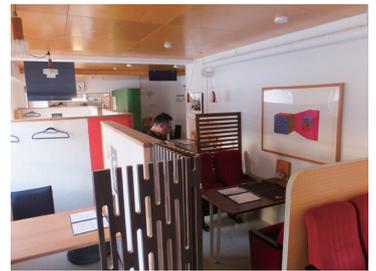
### 設立までの経緯

豊岡劇場があるエリアには、かつて鞆工場が何軒もあり、工場で働く人が映画館にたくさん来ていたと聞いています。私も子どもの頃から「豊劇」によく通いましたし、周辺の住民から長く愛されていました。市内や周辺には娯楽施設が少なく、豊劇は文化的にも重要な存在でしたが、デジタル化の影響などによって2012年に閉館してしまいました。豊劇がなくなったことで、豊岡市民が映画を見るには、車で往復2時間かけて京都の「福知山シネマ」に行くか、3時間かけて姫路のシネコンに行かなければならなくなりました。

この地域にとって貴重な文化施設であり、文化遺産でもある豊劇をなんとか再生したいと思い、2013年から「豊劇新生プロジェクト」を始めました。このプロジェクトについては、2013年の浜松での全国コミュニティシネマ会議や、翌年の東京での会議でもお話させていただきました。クラウドファンディングを利用して集まったお金や助成金と、自己資金等でリノベーションをして、2014年12月に再オープンすることができました。2019年で丸5年になります。

### 運営方法

映画館のロビーにあるカフェは、映画を見ない人も利用できます。クリエイターの方がコワーキングスペースとして利用していたり、高校生が自習している姿も見かけます。また、館内にレストランもオープンし、ママ友同士のランチや映画を見た方など、幅広く利用してもらっています。豊岡劇場を運営する有限会社石橋設計は、不動産や飲食事業なども行っていて、劇場運営はこういった他の事業もあわせて収支を保っています。経営面について

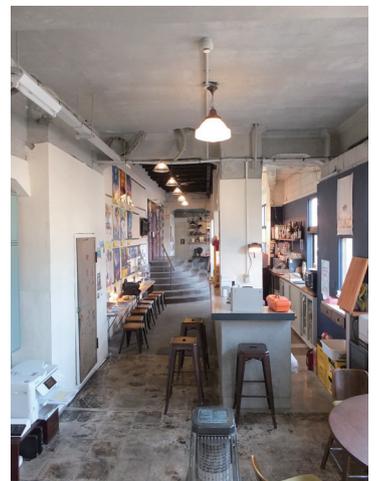


上から

—  
豊岡劇場 外観

—  
豊岡劇場 小ホール劇場内、  
ゆとりをもって席が配置されている。

—  
豊岡劇場 隣接レストラン  
レストラン内部。映画館の座席や座敷など、  
様々なテーブルが並ぶ。



劇場ロビー

—  
カフェのみの利用も可能。

## 2019年5月の上映作品

- 『天才作家の妻 -40年目の真実』  
(2017 | ヴィルヘルム監督)
- 『翔んで埼玉』(2019 | 武内英樹監督)
- 『アベンジャーズ/エンドゲーム』  
(2019 | ジョー&アンソニー・ルーソ監督)
- 『神宮希林 わたしの神様』(2014 | 伏原健之監督)
- 『家族のレシピ』(2017 | エリック・クー監督)
- 『グリーンブック』(2018 | ピーター・ファレリー監督)
- 『半世界』(2019 | 阪本順治監督)
- 『ブラック・クラウンズマン』(2018 | スパイク・リー監督)
- 『ピロップ 未来への大逆転』(2018 | ミミレータ監督)

は、新生プロジェクトを始めた頃から、兵庫県立大学経営学部の西井教授ゼミに協力してもらい、地域コミュニティの活動の場という視点から様々なビジネスモデルを提案していただいたり、サポートしてもらっています。

## 上映作品・観客

再オープン後しばらくは、ミニシアター系、インディペンデント系の作品を中心に上映していましたが、ディズニーの方が豊岡劇場を応援してくれていたおかげで、2016年に『ファインディング・ドリー』を上映することができました。それ以降、徐々に上映作品の幅が広がり、ディズニーのアニメーションや、スター・ウォーズ、マーベル作品や日本映画の大作を、ミニシアター系の作品と並行して上映ができるようになりました。客層も広がり、年間観客数も増加傾向にあります。2019年は、『トイストーリー4』や『アベンジャーズ/エンドゲーム』といった大作、ミニシアター系の話作『新聞記者』などを多く上映することができたので、観客数は2万人ほどになりそうです。

## これから

2018年に劇場の正面にある空き家だった民家を借り上げ、「豊劇ハナレ」をつくりました。ここは、上映後の交流会といった映画関連のイベントだけでなく、地域の集いや展示会のために貸し出しもしています。豊岡市は城崎国際アートセンターができて、舞台芸術に注力しているので、映画に対しては、市からの支援や協力はあまり期待できませんが、複数の事業をやりながら映画館運営を行い、収支を保つというやり方なら、他の地域でも民間企業が映画館を運営することは可能だと思います。これから、豊岡が演劇のまちとなり、国際的な演劇祭などが開催されるようになれば、豊劇でも関連したイベントなども積極的に実施していきたいと思っています。



シネマ尾道 外観  
手作りの看板が劇場の入口を飾る。

シネマ尾道 [2008年10月開館] | <http://cinemaonomichi.com/>

中国地方 広島県尾道市	運営団体 NPO法人シネマ尾道	年間上映本数 約160本
尾道市人口 約13万人	住所 広島県尾道市東御所町6-2	年間観客動員数 約2.5万人
近隣の映画館	1スクリーン [112席]	毎日上映 アート系作品を上映
福山駅前シネマモード(福山市) [2スクリーン]	上映設備 DCP/35mm/BD/DVD/	
福山エーガル8シネマズ(福山市) [8スクリーン]	DVカム	

尾道市は広島県東南部の瀬戸内海側に位置し、人口は約15万人。神戸から北九州までを瀬戸内海に沿って結ぶ山陽本線が通っていて、岡山駅まで1時間半、広島駅までは2時間、福山駅までは20分ほどである。東京からは、新幹線「のぞみ」を利用し福山から山陽本線に乗換えると約4時間で到着する。

市の大半が山地となっており、海と島と山地、丘陵が織りなす豊かな自然は、映画『東京物語』(小津安二郎監督)や『裸の島』(新藤兼人監督)、大林宣彦監督の尾道三部作など、多くの映画やアニメーションで描かれてきた。最近では、尾道市と愛媛県今治市を結ぶ「しまなみ海道」のサイクリングルートが「ミシュランガイド」等でも紹介され、海外からも多くの観光客が訪れている。

シネマ尾道は、2001年に閉館した尾道駅前の「尾道松竹」をリノベーションし、2008年10月に開館した。112席の1スクリーンを有し、運営は「NPO法人シネマ尾道」が行っている。劇場正面には、2018年に俳優の満島真之介氏や絵本作家の長田真作氏が地元小学生とともに作った「シネマ尾道」の大きな看板がかかけられている。

## シネマ尾道 支配人 河本清順さん、副支配人 北村眞悟さんの話

## 設立までの経緯

映画の全盛期には尾道に9館ほど映画館がありましたが、2002年に「尾道松竹」が閉館して市内に映画館がない状態が続いていました。尾道から映画館がある福山まで車で40分、さほど遠くはないですが、映画を

見に行くには不便です。そこで、2004年に「尾道に映画をつくる会」を立ち上げ、それから4年間、上映会やシンポジウムを開催し、映画館再生への協力を呼びかけました。市民の募金で映画館建設費の2700万円が集まり、2008年に「シネマ尾道」を開館することができました。

子どもからお年寄りまで、誰でも歩いて行ける場所に映画館があることが理想だったので、駅前にまだ建物が残っていた尾道松竹を使わせてもらうことができてよかったです。

開館から10年が経ちましたが、ここ数年、尾道市にはIターンやUターンの移住者も徐々に増えていて、商店街にも新しい店ができ、若い層にも観光地として人気が出てきて、まち全体が少しずつ元気になっていて、それが「シネマ尾道」の運営にもいい影響を与えていると感じます。

### 運営方法

映画館の運営は「NPO法人シネマ尾道」が行っています。現在は、有給スタッフ4名のほか、ボランティアスタッフや多くの尾道市民に支えられています。

2017年に「尾道映画祭」が始まり、シネマ尾道が映画祭事務局をやることになりました。それ以前に2011年から開催されていた「お蔵出し映画祭」という映画祭があり、そちらは東京の映像制作会社が企画・運営していました。尾道や福山を拠点とする船会社が2000万円出資して始まりましたが、尾道市も毎年250万円出していました。「お蔵出し」という名前の通り、未公開作品を上映していたのですが、映画祭はあまり盛り上がりず2015年で終了してしまいました。しかし、尾道市としては映画祭は続けたいと考えていたので、地元の人自身の手作りの映画祭「尾道映画祭」をやることになりました。お蔵出し映画祭のための市の予算をそのまま引き継いでいます。私たちが事務局なので、劇場での公開時期を意識しながら作品選定もできますし、普段の上映ではゲストを呼ぶことは難しいですが、映画祭で様々な映画人に尾道に来ていただけるのはとてもありがたいです。

事務局経費も含めて市からの予算が大体200万円ですから、スタッフの負担も増えて、運営的に大変な部分もあるのですが、普段映画を見ない人も映画祭には協力してくれて、まち全体が盛り上がるので、多くの人に映画に関心を持ってもらういい機会だと思っています。

### 上映作品など

シネマ尾道では、ミニシアター系の作品を中心に番組編成をしています。2017年に『この世界の片隅に』を上映して、新しいお客さんが増えました。最近では遠方から来る人も多く、シネマ尾道の存在が全国に浸透してきたことを実感しています。観客数も少しずつ増えていて、2019年の年間観客数は約2万5千人となっています。通常の上映以外にもいろいろな活動をしています。ここ数年、夏休みと冬休みの時期に、興行の一枠で子ども向け作品の上映やワークショップを実施しています。今年の冬には12月21日から1週間『パンダコパンダ 雨ふりサーカス』(1973 | 高畑勲監督)をフィルムで上映後、小学生以下の子どもたちを対象に映写室見学を実施しました。「アンパンマン」シリーズも、毎年冬休みに上映しています。

開館当初から子ども向けのワークショップを続けていましたが、ここ3-4年、市内や周辺の島の小学校から放課後教室や土曜教室、夏休みの課外授業などの依頼が増えていきます。参加した保護者の方の口コミで徐々に広まっているようです。こちらから学校へ出向くことが多いですが、課外授業としてシネマ尾道に来てもらったこともあります。

このようなことができるようになったのも、フィルムからデジタルになったことが大きいです。フィルムの頃は映写技師の負担が大きく、映写室にこもりがちでしたが、デジタルになったおかげで外に出て活動できるようになりました。ロングラン上映もできるようになり、今年ヒットした『新聞記者』や『万引き家族』は、10週以上上映しました。デジタル化のメリットは地方の劇場ほど感じているのではないかと思います。

### これから

現在、デジタルシネマ機の不具合はほとんどないのですが、2013年に中古で導入した機材で保守契約がもう



支配人の河本清順さん(右)と副支配人の北村真悟さん(左)

— 映写室見学の様子

— シネマ尾道の子ども向け上映については、『全国コミュニティシネマ会議2019 伊豆・静岡分科会採録 | 子ども映画プログラム——若年層の観客を開拓する』[p.067]を参照。

### 2019年12月下旬-2020年1月上旬の上映作品

『アイネクライネナハトムジーク』(2019 | 泉力哉監督)  
 『台風家族』(2019 | 市井昌秀監督)  
 『人生をしまう時間(とき)』(2019 | 下村幸子監督)  
 『それいけ!アンパンマン きらめけ! アイスの国のパニラ姫』(2019 | 矢野博之監督)  
 『ひとよ』(2019 | 白石和彌監督)  
 『真実』(2019 | 是枝裕和監督)  
 『ゾンビ』(1978 | ジョージ・A・ロメロ監督)  
 『影踏み』(2019 | 篠原哲雄監督)  
 『楽園』(2019 | 瀬々敬久監督)  
 『よこがお』(2019 | 深田晃司監督)  
 『パンダコパンダ 雨ふりサーカスの巻』(1973 | 高畑勲監督) • 上映後、子ども向けに映写室見学を実施

すぐ終わるので心配です。また、建物や座席も古いので修繕したい気持ちもありますが、費用が大きいので具体的な計画はできていません。最近では新潟シネウインドさんがクラウドファンディングで新しい椅子を入れていましたが、こういうときには、地域とのつながりがあるかどうか重要になってくると思います。

地域の映画館としてあり続けるために、映画ファンだけが集まる場所というだけでなく、幅広い方に来てもらえるような場所になるように、ワークショップや映画祭など、地域の人たちに協力してもらいながら続けていきたいと思っています。



ガシマシネマ入口  
「佐渡金山元鉱山長住宅」と書かれた看板も。

ガシマシネマ上映スペース

ガシマシネマ [2017年4月開館] | <http://gashimacinema.info/>

中部地方 新潟県佐渡市	運営団体 個人事業主	年間上映本数 22本(2019年)
佐渡市人口 約5万人	住所 新潟県佐渡市相川上京町11	年間観客動員数 2000人弱
近隣の映画館 なし	1スクリーン [20席(移動可能)]	週5日(水-日) / 1日2回上映
	上映設備 BD/DVD/16mm/8mm	アート系作品を上映

佐渡島は新潟県西部に位置し、東京23区の約1.5倍の広さを持ち、沖縄本島に次いで日本で二番目に大きな島で、約5万人が暮らしている。暖流と寒流の接点にあり、南北両系の多様な植物を保護するため、島の大部分が国立公園や県立公園に指定されている。本州との移動は航路のみで、新潟港から佐渡島東岸の両津港までジェットフォイルという高速旅客船で約1時間、直江津港から島南端の小木港にフェリーで約1時間半で到着する。佐渡空港は民間機の運行がないため、東京からは、上越新幹線で新潟駅に出てから航路で行くルートのみとなっている。

かつては流刑地として知られ、都から流された文人や政治家が伝えた貴族文化、鉱山の発展により江戸から持ち込まれた武家文化、船乗りや商人によって運ばれた町民文化が一体となり、佐渡特有の文化が形成された。能楽や佐渡おけさ、鬼太鼓(おんてこ)といった伝統芸能も有名である。日本最大の鉱山のひとつであった佐渡金山は観光地となり、佐渡市はユネスコ世界遺産への登録を目指している。

「ガシマシネマ」がある相川町は、両津港から西へ車で1時間、佐渡金銀山の近くにあり、鉱山業が栄えていた頃は東京からの出向社員や役員などの社宅が並ぶエリアだった。ガシマシネマは、かつて鉱山長の住居であった木造民家をDIYでリフォームし、2017年4月にオープンした。玄関には、相川町にあった映画館で使用されていたカーボン式映写機が飾られている。二つの座敷の襖を取り払ってつくられた上映空間には、客席として様々な椅子が20席ほど並べられている。

### ガシマシネマ 店主 堀田弥生さんの話

#### 設立までの経緯

私は福島県会津若松出身ですが、新潟の大学へ進学し、「新潟シネウインド」でアルバイトをしたことがきっかけで映画が大好きになりました。その後、東京の映画館「BOX 東中野」、「ポレポレ東中野」で約10年間働きましたが、東京での生活は息苦しく、広々とした場所で子育てをしたいと考えていました。佐渡島に移住した友人を訪ねて佐渡の自然の豊かさや町並みに惹かれ、家族4人で移住することを決めました。2010年に移住し、子育てが落ち着いてからしばらくは地元の会社で働いていました。2015年に行きつけの古民家カフェが閉店することになり、オーナーから「ここを使って何かやらないか」と提案されました。佐渡には長い間映画館がなく、映画館を作りたいと前から思っていたので、ここにシネマカフェを作ることを決めました。約1年かけて夫と二人でリノベーションして、2017年4月にオープンしました。

相川町は、鉱山業が栄えていたころに東京から出向した社員や役員の社宅があった地域で、現在でも当時の古い木造家屋がそのまま残っています。ガシマシネマのまわりにも、空き家だった古民家を利用した民芸品や雑貨のお店やカフェなどが増えています。

ガシマシネマ店主の堀田弥生さん



## 運営方法

オープン当初は興行場として認められず、平日の上映ができなかったのですが、新潟県知事にも掛け合っとうやく認可が下り、2018年からは週5日上映ができるようになりました。現在は水曜から日曜まで週5日、1日2回上映しています。

映画鑑賞料金は、飲み物付で1000円です。カフェスペースのみの利用も可能で、カレーなどのランチメニューも用意しています。日当たりのいい板の間に書籍コーナーを設け、映画雑誌のバックナンバーや漫画や、図書館から借りてきた上映作品に関連する書籍を置いています。アルバイトは雇わず、受付、映写、カフェ、全て私ひとりで行っています。

## 上映作品

ガシマシネマではアート系の作品を中心に、1ヶ月に2作品を上映しています。主な上映素材はブルーレイですが、16ミリと8ミリの映写機があるのでフィルム上映を行うことも可能です。

観客数は月平均100-200人、今年は年間2000人弱になりそうで、少しずつ増えてきています。今年の上映作品の中では、樹木希林さんの出演作品がどれも集客が良かったです。『万引き家族』を上映した時は1ヶ月に500人も来ました(1回平均23人程度)。一方、外国映画の上映は毎回苦戦しています。配給会社からはフラット(固定料金)で借りることもありますが、なるべく歩合でお願いしています。

## これから

いまは中高年の女性のお客様がほとんどですが、子ども向け映画の上映もやっていきたいと思っています。庭が広いので、そのスペースを整備して、大人が映画を見ている間に子どもが遊べる場所にできたらいいなと思っています。シニア層の方がお孫さんたちを連れてくるような上映会も開いてみたいです。

地域でクリエイティブな活動をしている個人事業主の人たちとつながり、一人で運営すれば、基本的には赤字になることはありません。シネコンが進出していないエリアは日本各地にあるので、その土地の特性をいかしたガシマシネマのような上映空間が日本各地に増えていけばいいと思います。

最近では、佐渡島内全ての図書館に、ガシマシネマのチラシを置いてもらえるようになりました。これを突破口として、地域のまちづくりにも関わっていければと思います。全国津々浦々、どんな田舎でも、その年の主要な国際映画祭の受賞作品くらいはスクリーンで上映し、作品について感想を語り合える場所があるといいと思うので、そのためにもガシマシネマを盛り上げていきたいと思っています。

シネ・グルージャ [2019年7月開館] | <https://cinegrulla.com/>

近畿地方 京都府舞鶴市	運営団体 個人事業主	週3-4日(水、土、日、祝 午後より営業)
舞鶴市人口 約8万人	住所 京都府舞鶴市字竹屋24-2	アート系作品を上映
近隣の映画館	1スクリーン[最大50席程度]	
舞鶴八千代(舞鶴市)[3スクリーン]	上映設備 DCP/BD/DVD	

舞鶴市は京都府北東部の日本海側に位置し、人口は約8万人。京都駅から特急「まいづる」で約1時間半、京都や大阪、神戸といった近畿の主要都市からは2時間ほどで着く。他には隣接する綾部市との間に「舞鶴線」、舞鶴市と福井県敦賀市を結ぶ「小浜線」が通っている。日本海に面する舞鶴湾は、旧日本海軍の鎮守府として栄えた東港と、江戸時代から商業港として発展した西港に分かれており、市街地も東舞鶴と西舞鶴で二分され、どちらも異なる特徴をもつ。赤レンガ倉庫や海軍記念館があり軍港の印象が強い東舞鶴に対し、西舞鶴には奈良時代からの神社仏閣や、昔ながらの木造建築の民家が残っており、城下町の風情が漂っている。「シネ・グルージャ」がある西舞鶴の竹屋町は、海運交易や商業の中心地として栄えた歴史あるエリアで、表通りには、昔ながらの漆喰平入の町家が立ち並んでいる。



カフェスペースにある書籍コーナー

ガシマシネマ11月チラシ(下)



2019年11月、12月、2020年1月の上映作品

11月

『NO SMOKING』(2019|佐渡岳利監督)

『樹木希林』を生きる』(2019|木寺一孝監督)

12月

『愛がなんだ』(2019|今泉力哉監督)

『ANNA』(1966|ビエール・コラルニック監督)

1月

『ディリリとパリの時間旅行』

(2018|ミシェル・オスロ監督)

『エセルとアーネスト ふたりの物語』

(2016|ロジャー・メインウッド監督)



シネ・グルージャ外観  
六角形の建物



シネグルージャ ホール内  
こだわりの椅子が並んでいる。

#### オープン当初(2019年7-8月)の上映作品

- 『ミツバチのささやき』(1973|ピクトル・エリセ監督)
- 『エル・スール』(1983|ピクトル・エリセ監督)
- 『光りの墓』(2015|アピチャップポン・ウィーラセクタン監督)
- 『草原の河』(2015|ソントルジャ監督)
- 『ラッキー』(2017|ジョン・キャロル・リンチ監督)
- 『君の名前で僕を呼んで』(2017|ルカ・グアダニーノ監督)
- 『希望のかなた』(2017|アキ・カウリスマキ監督)
- 『パターソン』(2016|ジム・ジャームッシュ監督)
- 『ギミー・デンジャー』(2016|ジム・ジャームッシュ監督)



シネグルージャ 受付  
受付の奥に小さなキッチンがあり、  
カフェの飲食もここから提供される。

駅から徒歩約15分、通りから見える緑の小道を進むと見えてくる六角形の平屋の新しい建物が、2019年7月にオープンした「シネグルージャ」である。ホールも六角形で、天童木工やニーチェアXの座り心地やデザインにこだわった椅子が各所に置かれている。

#### シネグルージャ 代表 中嶋一晶さんの話

##### 設立までの経緯

1960年頃まで舞鶴市内には映画館が8館もあったようですが、現在は東舞鶴にある「舞鶴八千代」1館のみとなり、ミニシアター系の作品が上映される機会はほとんどありません。

15年ほど前に地元舞鶴に戻って、友人らと音楽グループ「Cine Grulla(シネグルージャ。Grullaはスペイン語で鶴を意味している)」を結成し、ゆるやかに活動を続けていました。2017年頃、西舞鶴で医院を経営する友人と、表通り沿いの土地を利用して映画上映や音楽イベントができる場所を作ろうという話が出て、とりあえずコミュニティシネマセンターの会員になりました。計画を進めていたところ、コミュニティシネマセンターから、閉館した映画館のDLPとサーバーを安価で譲り受けることができるという情報を得て、映写機材とともに劇場用の防音ドアも一緒にいただきました。

2019年春ようやく建物ができ、2019年7月にオープンすることになりました。建物はサーカス小屋のような、六角形のかたちをしているので、スペイン語で数字の6を意味するSeis(セイス)と名付けました。「セイス」がカフェの名前、映画上映(シネマカフェ)の場が「シネグルージャ」です。

##### 運営方法

医院と駐車場を共同で使用するので、水曜日と、土、日、祝日に、1日3-4回上映を行うことにしています。月曜と火曜日が休館日です。

映画上映がないときはホールのドアを解放し、建物全体をカフェとして利用します。映画上映中でもカフェやバーは利用もできるようにしました。また、ホール内の椅子もこだわっています。映画を見てもらう間に座り心地を体感してもらえらると思ひ、代理店として販売できるようにもなりました。基本的には映写や受付、カフェ営業も私ひとりです。

シネグルージャでは、新旧問わず、舞鶴では上映される機会がなかった世界各国の様々な映画を上映していきたいと考えています。DCP対応のDLPを備えているシネマカフェは珍しいようですが、作品の選択の幅が広がると聞いたので思いきって導入しました。

内覧に来てくれた方の中にはこの場所でイベントをしたいと言ってくれた方もいましたし、時には私たちのグループのライブもやりたいと思っています。

映画上映だけでこの場所で続けていくのは難しいと思うので、カフェやバー、雑貨を売るショップなども併設し、音楽イベントなども行いながら、様々な人が来てくれる場所にしていきたいと思っています。